

「健康な社会」実現のために 企業にできること

2020年10月9日
基礎研シンポジウム

ニッセイ基礎研究所 主任研究員
三 原 岳

今日の流れと注意事項

今日の流れ

- 15時～15時10分：開会挨拶、問題提起
- 15時10分～15時50分：近藤克則先生の講演
- 15時50分～16時40分：パネルディスカッション
(15時50分～16時5分：松本様による豊明市の事例紹介)
- 16時40分：終了

質問方法

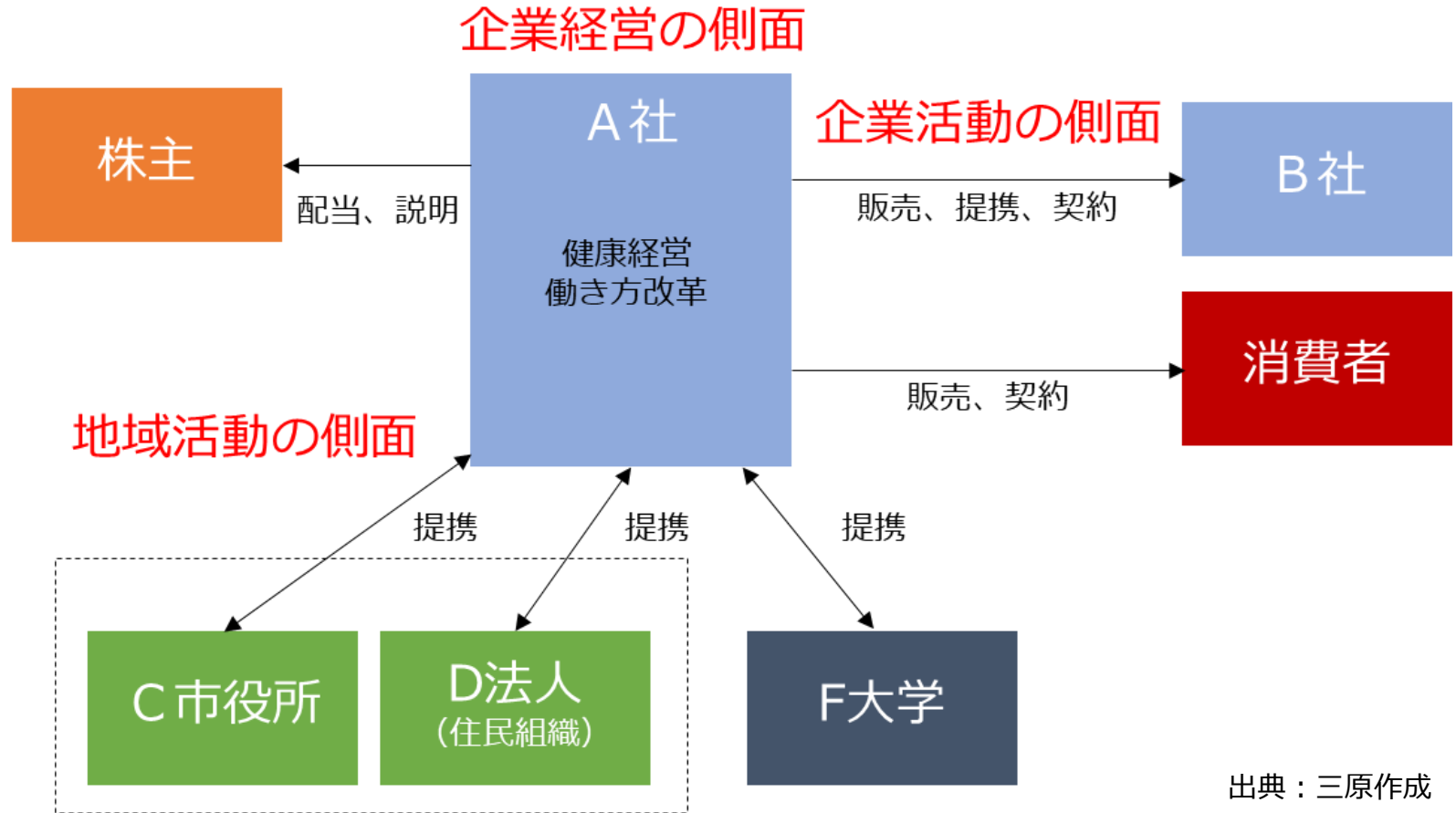
○ご質問については「Q&A」ボタンより受け付けております。
(パネルディスカッションの時間に適宜取り上げさせていただきます。)



企業は様々な形で健康づくりに関わっている

企業は従業員に対する「健康経営」など社会と密接に関わっており、
様々な形で健康づくりに貢献できる。

図：健康づくりと企業の主な関係



出典：三原作成

健康づくりに関する企業の取り組みの現状

健康経営や特定健診などの推進に加えて、
多くの会社がSDGs経営を掲げ、自治体と協定を結んでいるが……。

健康経営

メタボ健診、ストレスチェック

- ▶ 会社として「健康経営」を重視し、特定健診（メタボ健診）の受診率を引き上げようとしているほか、ストレスチェック、残業時間の解消などに取り組んでいるが……。



現実には・・・

- 健康に興味のある人しか興味を持ってくれないため、無関心層に広がらない。
- 従業員に必要性を説明できないor浸透しない。
- 株主に費用対効果を説明できない。

CSR SDGs経営

- ▶ 会社として「CSR」「SDGs」を重視し、社会貢献活動に力点を置いているほか、協力関係をうたった自治体と協定を結んでいるが……。



現実には・・・

- 「SDGs」経営を掲げたものの、何をやって良いか分からない。既存の事業を後追的に「SDGs」に絡めて説明している。
- 自治体と協定を結んでも、具体的に何をやって良いか分からない。
- 株主に費用対効果を説明できない。

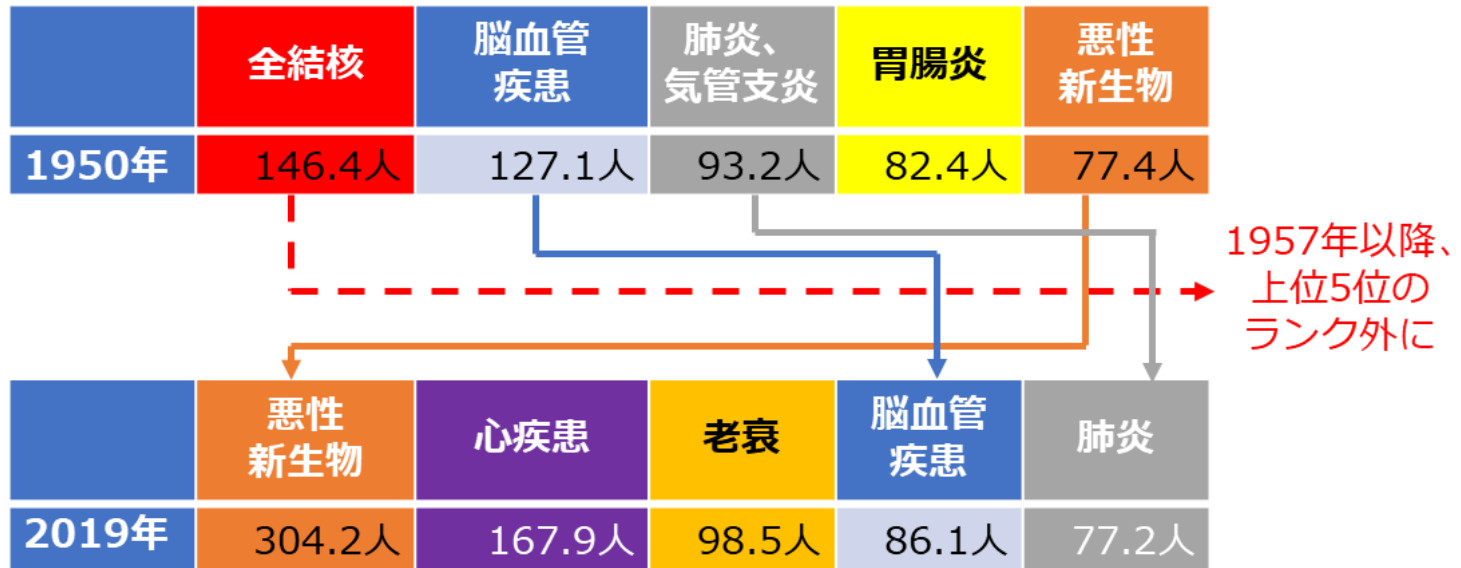
では、どうするのか？

➔ 今回のシンポジウムを通じて考えて行きたいと思います。

疾病構造と「健康」観の変化

疾病構造が慢性期中心に変わり、
健康と不健康の線引きは不鮮明に。

約半世紀で変わった日本人の「死に方」（対人口10万人で見た死因5位）



出典：厚生労働省「人口動態」を基に作成

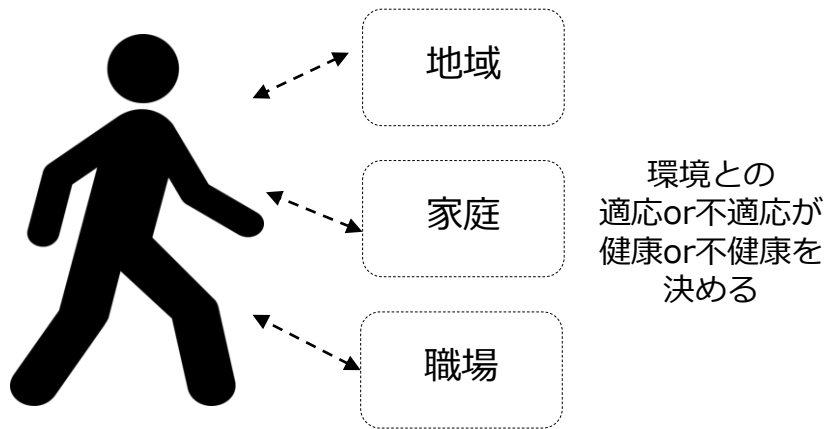
➤ 疾病構造が急性期、感染症から慢性疾患にシフトした。この結果、健康と不健康の線引きが不明確となった。

➔ 病気の無い人が「健康な人」、病気のある状態が「不健康な人」と一概に言い切れなくなった。

例：結核になった人は隔離されていたが、がんになっても仕事や生活を続けられるようになった。

健康の社会的決定要因とは何か

疾病構造の変化を受けて、
本人と周囲の関係性に着目した健康づくりが重要になっている。



- 心身的に健康な人でも環境に適応できなければ**不具合を感じる**時がある。
(例) メンタルヘルスの問題
- 逆に、病気や障害のある人も周囲の配慮があれば、**生活の質 (QOL)** を高められる。

➤ 健康には個人の生物学的な要因のほか、**心理・社会的要因**などが絡む。

➔ 不健康を個人の責任問題にせず、不健康を生み出す環境や要因に着目しつつ、課題解決を探る「**健康の社会的決定要因 (Social Determinants of Health)**」が重要に。

➔ 詳細は近藤先生に御説明頂き、健康な社会づくりに向けた企業の役割を問い直します。

医学モデルから生活モデルへの転換

疾病構造の変化を受けて、周囲の環境も含めて本人の生活を支える「生活モデル」が重要になった。

医学モデルと生活モデルの違い

| | 医学モデル | 生活モデル |
|--------|-------------|---------------|
| 目的・目標 | 病気の治癒・治療・救命 | QOL（生活の質）の向上 |
| ターゲット | 病気 | 人、環境、生活 |
| 場所 | 主に病院 | コミュニティ（地域・職場） |
| 従事者 | 医師が中心 | 多職種によるチーム |
| 支援の進め方 | 医師による命令、指示 | カンファレンス |
| 評価の指標 | 医学的なデータ | QOL、社会参加機会 |

出典：広井良典（2005）『ケア学』などを参考に作成

- 疾病構造の変化を受け、病気を治す**医学モデル**だけでなく、**コミュニティでの生活支援**や**関係者の連携**を図る**生活モデル**が重要に。
- 愛知県豊明市では**生活モデル**に力点を置いた**高齢者の健康づくり**を展開しており、関係者の一つとして**民間企業との連携**を進めている。
- ➔ 詳細は松本様から御説明頂き、健康な社会づくりに向けた企業の役割を問い直します。

※2013年8月の社会保障制度改革国民会議報告書は「治す医療」から「治し、支える医療」への転換を記述。

詳細は近藤先生の基調講演、
松本様の事例紹介で。

御清聴、有り難うございました。

問い合わせは

mihara@nli-research.co.jp